

島根県大田市街地で轢死していた ゲンゴロウ (コウチュウ目ゲンゴロウ科) の記録

皆木 宏 明*

Note *Cybister chinensis* Motschulsky of Ooda City on Shimane Pref.

Kohmei Minagi

ゲンゴロウ *Cybister chinensis* は、日本では北海道から本州、四国、九州と広く分布する大型の水生甲虫類である (佐藤, 1985)。主に抽水植物の豊富なため池などの止水環境に生息し、成虫、幼虫ともに他の水生昆虫や両生類、魚類などを食べる肉食性の昆虫である。環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類、島根県レッドデータで絶滅危惧Ⅰ類に指定され、全国的に絶滅が懸念される代表的な水生昆虫の1つである (環境省, 2012; 島根県, 2014)。

島根県内でも県全域で確認記録があるが、近年は全国と同様に減少傾向にあるとされ、特に平野部での生息記録が乏しい (島根県, 2014)。今回、島根県大田市内の市街地にある商業施設の駐車場にてゲンゴロウの轢死個体 (図1) を確認したので報告する。

確認種: ゲンゴロウ *Cybister chinensis*

確認数: 1 個体

確認日: 2013年4月15日

確認場所: 島根県大田市大田町大田

確認者: 皆木宏明

確認場所は、島根県の幹線道路である国道9号線からほど近い大田市内の中心部にある商業施設の駐車場で、大田市役所からも直線距離で約550mしか離れていない場所であった (図2)。状況からおそらく車に轢かれたものと推測され、午前開店間もない駐車場で確認したことから、前日の夜間に飛来していたと思われた。

ゲンゴロウは夜間灯火に誘引される習性があることが知られ、四方(1999)によるマーキング調査によると、越冬後の繁殖期 (3~6月) や羽化後の秋、もしくは

環境改変により成虫が飛翔移動することがわかっている。また、島根県の水田と溜め池で調査した西城(2001)の調査でも、ゲンゴロウは主な生息地を水生植物の多い溜め池としているが、繁殖期になると恒久的な水域から離れ、一時的な水域である水田を利用する傾向が



図1 轢死したゲンゴロウ



図2 ゲンゴロウの確認場所

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

あることが明らかとなっている。本個体は4月中旬に確認したことから、越冬明けの飛翔移動で飛来した可能性が考えられるだろう。

近年は、水域の減少や環境の悪化、護岸工事などの改変、さらにはブラックバス *Micropterus salmoides* などの外来種の繁殖による捕食圧の増大により県内でも近年確認例が減少し、危機的な状況とされる（島根県; 2014）。本記録は大田市市街地周辺でまだゲンゴロウが生息できる環境が残っていることを示唆する記録といえる。

引用文献

- 環境省 (2012) 環境省第4次レッドリスト (昆虫類).
- 森 正人・北山 昭 (2002) 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京. 231p.
- 佐藤正孝・黒澤良彦他編 (1985) 「原色日本甲虫図鑑 (II)」, 保育社, 183 - 201.
- 西城 洋 (2001) 島根県の水田と溜め池における水生昆虫の季節的消長と移動. 日本生態学会誌51:1-11.
- 四方圭一郎 (1999) 野外におけるゲンゴロウの移動と生存日数. 飯田市美術博物館研究紀要9:151-160.
- 島根県 (2014) 改訂しまねレッドデータブック2014動物編～島根県の絶滅のおそれのある野生動物～